





## 卓 話

### 福島 被災地報告

沼津商業高校 I A C

私たちは3年生13人、2年生1人、1年生5人の計19人が所属し、ペットボトルキャップの回収、使用済みコンタクトレンズケースの回収、青少年赤十字での活動、地域行事の手伝いなどを行っています。今年度は地元企業セイワ様のご協力のもと、横山トンネルの清掃を始め、トンネル内の大きなパネルや柵を拭いてきれいにしています。

今回は3年の斎藤碧衣が、昨年11/17～18に福島県の被災地視察及び高校青少年赤十字との交流研修に県代表として参加した際の報告をいたします。本来ならば斎藤本人が発表するべきですが、海外研修に参加しているため、代読という形で発表いたします。

11/16、6時間目の授業終了とともに福島県いわき市に向かいました。東京駅からは高速バスで、夜11時頃いわき駅に到着しました。想像したよりも寒くなく、町並みもきれいで、震災後ここまで復興したのか、それともこの地域は元々被害が少なかったのか疑問に思いました。

11/17、いわき駅に集合後、「コミュタン福島」(放射線や福島県の環境の現状に関する展示などがあり、福島県の多くを知ることができる施設)にバスで行き、開会式を行いました。震災からの経過時間を表す時計があり、こんなに時間がたっているのにまだまだ復興が進んでいないという事実が驚きました。放射線の仕組みや、放射線を目で見ることもできました。震災当時の福島第一原子力発電所の模型を見て、津波による影響を強く受けたということがわかりました。未だに除染をしており、帰宅困難地域の解除は2021年以降となる見通しだそうです。

バスで「よつくら港」に向けて移動中、福島についての説明が福島の高校生からありました。「僕の学校の野球部は甲子園に行けないことが決まり、事実上引退しています。」という発言に驚きました。2回目の除染が始まりグラウンドが使用禁止だからだそうです。除染は1回すれば終わりだと思っていたので、衝撃を受けたと同時に、こういう現実をもっと日本中に知らせるべきだと思いました。

よつくら港は多くの人の支援で再開した道の駅です。海沿いにあり、とても高い防潮堤が作られている途中でした。よつくら港の柱のタイルには、世界中の人からの復興を願うメッセージが書かれています。

次に、薄磯海岸を見に行きました。津波で多くの物が流れ着き、海岸を埋め尽くしたそうです。今では撤去も進みきれいな海を取り戻しています。海岸に向かう途中のバスの中では語り部さんのお話を聞きました。「津波が迫っていたので他の人を助けられず、目の前でその人が津波にのまれてしまった」という話は頭から離れません。

次に見学した豊間防災公園には、震災に備え様々な設備がありました。しかし震災から時間がたち、手入れが行き届かず、すぐに使えない設備もあるようです。本当にこれでいいのでしょうか？ 語り部さんは難しい現実も教えてくださいました。災害を意図的に忘れることで前を向こうとしている人もいるため、むやみに思い出させるような話をできないということです。子どもたちが公園として日常的に利用することで、すぐに思い浮かぶ場所になるだけでもいいのではないかと語り部さんはおっしゃっていました。みなさんはどのように考えますか？ 私は、この例を今後の静岡県の防災に活かしていくべきだと感じました。

宿泊先のホテルでは、福島県の高校生と他県の高校生が一緒に部屋に泊まり交流を深めました。まず、福島県の高校生が他県の高校生に震災等について話してくれる情報交換交流会を行いました。お肉を例に出し、今の福島県が安心だということを伝えている高校や、新

聞を並べて7年間の経過を伝えている高校もあり、とても面白く勉強になりました。東京オリンピックに向けての折り鶴の作成も行っていました。紙にメッセージを書き、鶴を折るというもので、私も含め多くの人に参加しました。

11/18、復興団地に行きました。団地に入っている人たちの多くは家を失って仮設住宅で過ごしていた方でした。祖父母などと暮らすため、原発避難のために帰れない、という方もいました。住民の方に震災当時のことや、地震が起きた際どのようなことをしたらいいかということも教えていただきました。

最後に、「ライブいわきミュウじあむ」で、いわきの東日本大震災展を見ました。津波後の学校の中の写真、救助隊の活動の写真、避難時に持っていくべきものの展示などがありました。震災で母親を亡くした人がおむすびを食べて、美味しさと悲しみがこみあげてきて泣いてしまったという話の展示品では、家族を失う怖さに襲われました。きっと私には想像もつかないくらい悲しいことなのだろうと思いました。実際の避難所を再現した展示では、思ったより狭い空間で驚きました。プライバシーやペットの問題で、車の中で過ごした人も多くいたそうです。津波で亡くなった娘に生前プレゼントしたもので、見ると娘を思い出したらからという理由で展示に出されたぬいぐるみもありました。思い出がたった1日でつらいものになってしまうのはとても怖いことだと思いました。どのくらい浸水したら死亡してしまうのかを表した展示もありました。自分の身長よりも低い100cmで死亡確率100%というのに驚きました。他にも多くの衝撃的なパネルが展示されていました。

その後、閉会式では、どのようなことを学んだのか、楽しかったこと、これからの対策などを話しました。2日間しか一緒にいないのに泣いてくれた人もいました。本当にいい人たちに恵まれ、いい研修になったと思いました。この研修で私は、震災の怖さ、その後の福島県、実際に行ってみないとわからないことなど、多くのことを知ることができました。静岡県は南海トラフが来ると予測されています。東日本大震災のような悲劇が少しでもなくなるように、福島県で学んだことをいろんな活動の場で伝えていきたいです。今日の話で震災について今よりももっと意識を持っていただけると嬉しいです。

紙面の都合により、一部を要約して掲載しました。

## 幹事報告

### 1. 例会変更のお知らせ

沼津柿田川…9/4(水)は9/7(土)

柿田川清掃奉仕作業

9/11(水)は創立夜間例会に変更

新富士…9/17(火)は9/14(土)

おきがる無料相談所に振替

### 2. 9/7(土)2019年度柿田川合同奉仕作業のご案内 ポストイン

### 3. 9/14(土)米山梅吉記念館創立50周年記念式典(移動例会)のご案内 ポストイン

### 4. 10/9(水)沼津4R C合同夜間例会のご案内

### 5. 11/4(月・祝)浜松地区大会のご案内と出欠のお伺い ポストイン

## スマイル・ボックス

東君…沼津商業高校市川教頭先生、I A C顧問大場先生、I A Cの生徒さん、本日はありがとうございます。よろしく願います。

實石君…①誕生日のお祝いありがとうございます。とうとう？ まだ？ 60歳です！ ②先日家族で野際さんにお世話になりました。色々とお気遣いいただきありがとうございます。感謝！